

認定こども園 みどりがおかようちえん

子どもたちが葛藤と挑戦ができる園庭づくりを通して

保育環境づくりのポイント

本園は昨年度の築山づくりから環境整備が始まりました。子どもたちが主体的に遊ぶ姿を見て、今年度もどの年齢も“安心・安全”で“夢中で遊び込める”には？と、職員で話し合いをしてきました。そして、保育環境研究家の木村歩美先生とも相談を重ね、新たな“築山”と“砂場”を作ることになりました。各年齢・それぞれの子どもが「やってみたい！できるかな？」と、葛藤と挑戦のできる環境を目指します。

～子どもたちのこの力を育みたい～

☑感じる・気付く力 ☑うごく力 ☑考える力

☑やりぬく力 ☑人とかがわる力

取組み内容

①ワークショップで環境整備

保護者・卒園児・在園児・地元の業者の方が幅広く参加してくれました。うまくいかない出来事もありましたが、いろいろな経験や仕事をされている方たちが集まって、出来上がった砂場と築山。作っていく過程で、「明日からどんな遊びをするのかな？」と思いが膨らみ、“子どもたちのために”と、“みんなで”作り上げていくワークショップの意義を感じました。



築山作り



砂場作り

③先生たちで振り返り

子どもたちの姿やエピソードを集め、整備によって子どもたちのどんな姿があるか、安全性はどうか、などについて話し合いました。

“1か所土がえぐられていて危ない”

“動線の狭いところをスクーターで下りると接触事故にならないか”などの気づき上がり、それを受けて土を盛りなおしたり、危険と思われる動線に花壇を設置したり、子どもたちが安全に遊べるようにメンテナンスを行いました。今後も継続的に話し合っていく予定です。

また、木村先生にもアドバイスを頂き、今後もこの築山や砂場で子どもたちがどのような遊びをしていくか、そのためにはどのような環境構成や準備が必要かを考えていこうと思っています。

1月には保護者向けに木村先生の講演も行い、3月には環境整備の報告会(仮)を行う計画をしています。子どもたちの充実した遊びのために、園に関わってくださる方々と一緒に考えていける風土を作っていきたいと考えています。



築山に花壇を作りました



1月24日の
木村先生の講演会

②遊びの姿から

築山も砂場も子どもたちが自分の力量に合わせて挑戦したり、友だちと遊びを広げたりする姿が見られています。

築山

- ・傾斜の角度(難易度)を選んで自分で上り下り
- ・乳児も、歩いたりハイハイをしたりしてどうしたら自分で上り下りができるか考えている
- ・スクーターで下る際に他児と動線がぶつからないか確認したり、順番を自分たちで決めながら遊んでいる



①



②

<エピソードの紹介>

「8号(四輪車の名称)がんばれ」と勾配の急な斜面から四輪車をまたいで登ろうとするAちゃん。しかし、勾配が急すぎて登れず、中腹で下って登り切れない様子。何か所かの斜面で上り下りを繰り返す。そして、比較的緩やかな斜面を見つけて、今度はスクーターから降りて、四輪車を押して頂上まで登る。頂上からは「足をついたら大丈夫」と自分にしか聞こえないくらい声で言って、両足を地面について足でブレーキをかけるように下った。下まで到着すると、「足をついたら降りれた」と言って、再び登りに行っていた。

勾配をどう登ろうか、どの勾配を選ぶのか、どうやって下るのか、自分を自分で励ましながらも、挑戦している姿が見られた

砂場

- ・以前より砂質が柔らかくなり、低年齢児も掘りやすく、様々な用具を使って遊んでいる
- ・掘りやすさから、空間を作って、ごっこ遊びを友だちと展開している
- ・縁を机代わりにしたり、一本橋で遊んでいる



お芋ほりしてるよ!

<今回の取組みを通して>

環境整備に取り組んで2年目ですが、継続することの大切さを日々感じています。保護者の方や地域の方とも協力して、子どもたちの成長できる環境を作り続けていきたいと思っています。

園長 梅崎 祥子

